

“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会（第3種，14年度，主査 森 淳暢）：本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数27名，平均出席者数は20名程度で，同志社大学を開催場所とし，3回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第43回研究会（平成26年6月22日 於：同志社大学） ①Boltzmann Particle Hydrodynamics の理論とその検証（島津製作所 猪坂 弘，NPO 法人あいんしゅたいん 松田 卓也），②可変絞り型水静圧スラスト軸受の軸受静特性（東理大 宮武 正明，吉本 成香，柚谷 啓），③HDD スピンドルにおける流体軸受技術の動向（日本電産 大江 貴之）．

第44回研究会（平成26年10月25日 於：同志社大学） ①高真空対応流体潤滑軸受に関する研究（東理大 宮武 正明，吉本 成香，柚谷 啓），②過酷な要求に応える静圧案内面の設計（ジェイテクト 齊藤 利幸），③機能性焼結軸受の紹介（NTN 特殊合金 古森 功）．

第45回研究会（平成26年12月13日 於：同志社大学） ①流体潤滑理論の速度境界条件とその例題（元関大 森 淳暢），②感圧塗料を用いた気体軸受圧力分布の可視化，（兵庫県立大 伊勢 智彦），③飽和水潤滑すべり軸受におけるキャビテーションの影響（パナソニック 庄山 直芳），④高速すべり軸受について（NTN 吉野 真人），⑤泥水潤滑によるアブレイシブ摩耗－嘘一杯の解析モデル－（元京大・大阪電通大 矢部 寛），⑥表面テクスチャを付与した金型によるチタンのねじ転造（有限要素法による摩擦特性の検討）（兵庫県立大 山本 俊輔，阿保 政義），⑦パッド形ジャーナル軸受内キャビティ流れの可視化とPIV計測による検討（舞鶴高専 郷橋 友之，野間 正泰），⑧グリースの油膜形成性に及ぼす増ちよう剤の効果（同志社大 小宮 広志），⑨近接場音響ホログラフィ（日本電産 大江 貴之），⑩小型水力発電機の水車の試作と試運転（スピンドルデバイス研究所 菱田 典明），⑪潤滑問題に関わる最近の研究トピックス（同志社大 平山 朋子）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年3～4回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>